

科目名	専門演習Ⅱ Seminar II						
科目担当者	宮田 浩史 Hiroshi Miyata						
単位数	4	配当年次	3年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [専門教育科目 演習] 他学部他学科履修×					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	<p>専門演習Ⅱでは、専門演習Ⅰで模擬裁判をはじめとして様々な体験や研究をして視野を広げたことを踏まえて、改めて自分の問題意識を深め、研究テーマ決定とアウトラインの検討を年間を通じて実施します。</p> <p>研究テーマ決定の一助となるために、個別テーマ研究の成果を、前期1回、後期1回、発表報告を予定しています。発表報告がないときは、民事裁判の取り組みを法廷教室で実施することを予定しています。なお、法的分析を加え、問題点を整理する力に加え、問題点に関する資料を収集し検討する力も修得することになると考えています。</p>						
授業の到達目標	<p>①民事法を中心としつつ、公法・刑事法の範囲も視野に入れて応用的素養の基礎をつくる。</p> <p>②各個人の興味のあるテーマについて、活発に議論し、ひいては、地域社会に対してどのような貢献ができるかという点からも考察を深め、実践できるようになる。</p> <p>⑤ノートPCを用いて双方向的なやりとりができる。</p>						
授業計画・内容	1	イントロダクション	16	法廷教室実践④			
	2	個々のテーマに関する問題点の整理検討①	17	法廷教室実践⑤			
	3	個々のテーマに関する問題点の整理検討②	18	法廷教室実践⑥			
	4	個々のテーマに関する問題点の整理検討③	19	個別テーマ研究③			
	5	法廷教室実践①	20	個別テーマ研究④			
	6	法廷教室実践②	21	個別テーマ研究⑤			
	7	法廷教室実践③	22	研究報告⑤			
	8	研究報告①	23	研究報告⑥			
	9	研究報告②	24	研究報告⑦			
	10	研究報告③	25	研究報告⑧			
	11	研究報告④	26	卒業論文作成①			
	12	個別テーマ拡充（法的な視点から）①	27	卒業論文作成②			
	13	個別テーマ拡充（法的な視点から）②	28	卒業論文作成③			
	14	個別テーマ分析研究①	29	卒業論文作成④			
	15	個別テーマ分析研究②	30	総合			
授業外学修 (事前学修)	適宜指示します（合計毎週2時間程度）						
授業外学修 (事後学修)	適宜指示します（合計毎週2時間程度）						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	<p>出席し、積極的に授業に参加することが第一です。</p> <p>①提出物及び個別報告</p> <p>②授業における発表及び当てられたときの発言</p> <p>※提出物及び個別報告は、提出（報告）条件を満たしていれば、50%は無条件で与え、残りの20%は、問題意識が明確であること、分析のアプローチが説得的であること等で評価</p>				①70% ②30%	①②④⑤ ①②③④	
成績評価基準	<p>秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合</p>						
教科書	適宜指示します						
参考文献							
その他	ノートPCを授業で常時利用するので毎回持参すること。						